

# 2013年を振り返る

## ～農業関連5大トピックス

- 【1】TPP交渉 農業関連重要5品目の関税撤廃阻止なるか
- 【2】農政の大改革 減反政策見直し始まる
- 【3】天候不順による農作物の被害が広がる
- 【4】米価下落 コメが動かないと肥料が動かない
- 【5】ホテル、百貨店等での食品表示偽装

2013年の締めくくりに編集局の独断で本年度に起こった農業関連トピックスを5つ挙げてみた。順位については賛否両論あると思われるが、ご容赦いただきながら1位から順に振り返っていただきたい。

### 1位：TPP交渉 農業関連5品目の関税撤廃阻止なるか

環太平洋連携協定（TPP）交渉で各参加国間の交渉が大詰めを迎えている。安倍首相は年内の妥結を目指していたが、アメリカとの交渉で隔たりがあり年明けに持ち越される様子。関税撤廃すると輸入品が安く買えて実質GDPが2.4兆円から3.2兆円増える試算だ。一方、農水省によると19品目の主要農産物の関税が即時撤廃された場合、我が国における農産物生産高が4.1兆円減、自給率が40%から14%に減少、農業雇用が340万人減少するという。これが実際の話となると農業を支える関連の業界も壊滅的な被害を受けかねず、結果に注目したい。

### 2位：農政の大改革 減反政策見直し始まる

安倍政権の「農政改革」が始まった。農地集積に加え、政府は40年以上続いた減反政策の見直しに入りコメ生産補助金の改正に着手した。現場では全貌がまだはっきりしていないため今まで国の方針に従ってきた生産者は不安の色を隠せないでいる。主食用米の生産目標大幅減に加え、何かと課題の多い飼料用米への転換等、減反政策の行く末に目が離せない。

### 3位：天候不順による農産物の被害が広がる

降雪、長梅雨、集中豪雨、秋の高温と突風・台風襲来等で日本列島は大きな傷を受けた年であった。農産物も被害が拡大した。秋の収穫物も果樹は傷モノを「訳あり」や「はぶき」等の名前で商品化し消費者にPRしている。また葉モノは台風被害と秋が短かった影響により生育が停滞し品薄状態で価格は高値で推移している。

### 4位：米価下落 コメが動かないと肥料も動きが鈍い

昨年までコメの販売単価が高値で推移した結果、本年に入りコメの消費が伸び悩み、流通は例年に比べて大量の在庫を滞留している。新米出荷もあり市況は下落しているが、一向に消費は上向かず荷動きは依然鈍いままだ。コメが動かないと倉庫が開かないために肥料が動かない。また、資金繰りにも影響があり消費税増税を控える中で販売店の苦勞が絶えない。農水省は需要に見合った生産に向けて26年度産米の生産数量目標を昨年比26万トン減の765万トンに下方修正し各県に配分を決定した。

### 5位：ホテル、百貨店等での食品表示偽装

百貨店やホテル、高級料亭において食品表示における虚偽記載が発覚し一斉に謝罪、今後の対策に迫られた。生産者や産地ではトレーサビリティの徹底やGAPの取得を流通業者と一緒に取り組みをみせている一方で消費者に一番近い販売側の不祥事に対して消費者のみならず生産者からも失望の

（次ページへ続く）

(前ページより続く)

声が高まっている。

振り返って書いているととても明るい話題とはいえない将来に不安を残す溜息まじりの内容ばかりではなかっただろうか。7年後に東京オリンピック招致決定したときの感動までとは言わないまでも来年は我が農業業界に明るい話題が来ることを望んでやまない。

## 平成26年度産米生産目標が決まる

### 前年比26万トン減 需給改善を視野に大幅減

農水省は来年度の都道府県別コメ生産目標を発表した。前年よりも大幅減の765万トン(面積換算で約145万ha分)となりおおよそ岩手県の実産数量に匹敵する量が減少、面積にて約5万ha分もの作付が制限されることとなった。理由は当初の需要見通しよりも18万トン減少したことや毎年8万トンの消費が減退していることを踏まえ25年産米の791万トンから26万トン減とした。新米価格は昨年より下がっているが24年産米も残っており、新米も倉庫からなかなか出て行かない状況だ。従来通り生産調整達成県の取り組みを考慮し過去の生産調整達成や県間調整、過去の政府への売り渡し実績を踏まえて各都道府県への配分を決定している。減少率が大きかったのは東京、鳥取、青森、宮城県。一方で減少率が低く抑えられたのが三重、新潟、富山、福島県。5万ha分の作付が制限されると、例えば高度化成の指標であるオール15(N, P, K成分で15-15-15)でコシヒカリを作付していた想定で計算した場合(チッソ成分で10a当たり6kg使用、20キ口袋で2袋使用として換算)100万袋(2万トン)分の肥料が消失する計算となり、肥料業界にとっては大きなインパクトといえる数値だ。

	26年産米生産 目標(kg)	面積換算値 (ha)	前年比生産数 量目標減少量 (kg)	前年比面積換 算減少量(ha)	減少率
北海道	554,140	103,580	18,800	3,510	3.3
青森	247,000	42,290	12,220	2,250	4.8
岩手	275,540	51,700	10,810	2,020	3.8
宮城	362,630	68,420	18,140	3,420	4.8
秋田	433,040	75,570	13,390	2,340	3.0
山形	358,570	60,370	15,630	2,630	4.2
福島	348,420	64,880	7,440	1,390	2.1
茨城	341,550	65,430	7,340	1,410	2.2
栃木	309,330	57,280	12,220	2,270	3.9
群馬	77,120	15,610	3,180	650	4.0
埼玉	152,680	31,160	3,920	800	2.6
千葉	249,280	46,770	6,420	1,200	2.6
東京	770	190	40	10	5.0
神奈川	14,290	2,900	340	70	2.4
新潟	535,640	99,380	10,030	1,860	1.9
富山	192,340	35,820	3,920	730	2.0
石川	126,400	24,350	3,000	580	2.4
福井	128,130	24,780	5,230	1,010	4.0
山梨	27,590	5,040	910	170	3.2
長野	196,640	31,560	7,760	1,250	3.8
岐阜	114,220	23,410	4,940	1,010	4.2
静岡	83,800	16,080	2,180	420	2.6
愛知	136,330	26,890	3,800	750	2.8
三重	146,070	29,210	2,670	540	1.8
滋賀	163,380	31,540	7,000	1,350	4.2
京都	76,350	14,940	2,420	470	3.1
大阪	26,210	5,290	770	160	2.9
兵庫	181,930	36,100	6,010	1,190	3.2
奈良	41,840	8,160	1,200	230	2.8
和歌山	35,040	7,080	1,080	220	3.0
鳥取	67,240	13,080	3,460	670	4.9
島根	92,570	18,190	3,520	690	3.7
岡山	160,190	30,450	5,850	1,120	3.6
広島	130,130	24,880	4,270	820	3.2
山口	110,820	21,990	5,530	1,100	4.8
徳島	58,320	12,300	1,490	320	2.5
香川	71,040	14,240	2,450	490	3.4
愛媛	74,490	14,960	1,690	340	2.3
高知	50,050	10,880	1,700	370	3.3
福岡	184,380	36,950	6,860	1,370	3.6
佐賀	135,230	25,760	6,310	1,100	4.5
長崎	62,640	13,100	2,600	550	4.0
熊本	189,920	36,880	7,790	1,510	4.0
大分	117,780	23,420	4,870	960	4.0
宮崎	94,470	19,010	4,660	940	4.8
鹿児島	111,540	23,090	3,980	830	3.5
沖縄	2,930	950	110	30	3.7
合計	7,650,010	1,445,910	259,950	49,120	

本年も当紙をご愛読下さいまして、誠に有難うございました。今年は編集局のメンバーも替わり、不慣れな中での編集でしたが、今までにない新しい内容もお届けできたのではないかと思います。来年も編集局一同、情報発信に努めて参りますので、どうぞ宜しくお願い申し上げます。今年は長い年末年始休暇ですね。どうぞ良いお年をお迎えください!

編集事務局：南部、助川

電話：03-5275-5511/E-mail：macjournal@mcagri.co.jp URL http://www.mcagri.jp